

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ほっとスマイル		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字小沢47番地2 (電話) 0191-21-0228		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成21年2月18日

【情報提供票より】(平成20年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	単独	新築	改築
建物構造	木造平屋造り			
	1階建ての	1階	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	日用品、光熱水費16,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	1 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82.1 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いとう脳神経科内科、むらかみクリニック、三関歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の笑顔(ほっとスマイル)が常に絶えないようにこの願いのもと、今年度、職員一丸となって新たな視点での理念をつくりあげている。ホームへの「地域理解」を深めるため、「夕涼み会」等主催行事について、地域にお知らせをして多数の住民の参加を得て交流を行うとともに、買い物や散歩等を通じた付き合いを通して、地域の信頼も得て支えあう関係が築かれている。利用者も一人ひとりの能力や状態に応じて、その役割を担い、家庭的な雰囲気の中、利用者同士お互いに分かり合って生活をしており、歌声や笑顔が絶えない明るいホームが実感できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で話題となった「終末期等対応方針の共有」については、「医療連携指針」等により職員ミーティング等を通じて基本的な対応について確認し合っている。また、「災害対策への地域協力」については、避難訓練への地域住民の参加、推進会議委員を緊急通報システム連絡網へ組み込むなど、協力体制づくりが進められている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、全職員で十数回の話し合い・勉強会を行うなど、相互に理解を深めながら取り組んでいる。これまでの二年間の評価プロセスを通して、多くの気づきを得てケアに対する職員の意識は着実に変化し高まってきている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、隔月定期的に行われているが、議事内容は、夕涼み会や避難訓練等の行事の実施結果や、外部評価等の事業計画など、事業所からの報告や説明が主であることから、今後は、委員からの意見や、提言など、話し合いの機会を増やしたいとしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議やオンブズマン制度、苦情相談窓口(箱)のほか、面会時にはいつでも意見等を出して欲しい旨説明している。また、アンケート調査を実施して意見等を出しやすい環境づくりに努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	普段は地域の回覧版回しや散歩、野菜の差し入れなどを通して地域との交流を図るとともに、地域一斉清掃への参加、紙芝居等のボランティアの受け入れの他、主催する「夕涼み会」には多くの参加を得て交流を深めている。なお、地域との交流について地元新聞が取り上げるなど、ホームの日常活動に成果をあげている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度、新たな理念”明るく笑顔のたえないホーム”、「①利用者一人ひとりの思いを受け止め、安心して暮らせるホームに、②ご家族、地域住民、ボランティアの方々と交流し、お互い支えあうホームに、③利用者、家族、職員も喜びと満足感を得られるホームに」を職員全員で、話し合いをしてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員ミーティングの際、「新たな理念」の趣旨や内容について確認しあうほか、共用スペースに理念を掲示して、常に職員が意識して日常のケアの実践に活かすようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段は地域の回覧版回しや散歩、野菜の差し入れなどを通して地域との交流を図るとともに、地域一斉清掃への参加、紙芝居等のボランティアの受け入れの他、主催する「夕涼み会」には多くの参加を得て交流を深めている。なお、地域との交流について地元新聞が取り上げるなど、ホームの日常活動に成果をあげている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員で十数回の話し合いや勉強会を行うなど、相互に理解を深めながら取り組んでいる。これまでの2年間の評価プロセスを通して、多くの気づきを得てケアに対する職員の意識は着実に変化し、高まってきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、隔月定期的で開催されているが、議事内容は、夕涼み会や避難訓練等の行事の実施結果や、外部評価等の事業計画など、事業所からの報告や説明が主であることから、今後は、委員からの意見や、提言など、話し合いの機会を増やしたいとしている。	○	地域密着型サービスとしてホームの機能をより活かすためには、地域の各分野から参加いただいている委員からホームでは日常できないこと、気付かないことなど、意見や提言を聞き、委員の人脈を生かし、時には支援を頂くなど、そのために必要な話題設定をするなど、工夫した取り組みに期待をしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険担当者とは電話等を通じて情報交換や相談等を行うほか、生活保護受給者(利用者)に関わる定期的訪問等を通して、福祉事務所職員との緊密な関係づくりにも努めている。介護相談員の訪問も受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「ほっとスマイル通信」で、利用者の暮らしぶりを写真付きでお知らせするほか、「担当者」欄を設けて、利用者の健康状況等をお知らせしている。緊急等の場合は随時、家族と連絡を取り合うほか、預かり金は、面会時等に家族に報告し、確認をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やオンブズマン制度、苦情相談窓口(箱)のほか、面会時にはいつでも意見等を出して欲しい旨説明している。また、アンケート調査を実施して意見等を出しやすい環境づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを最小限に抑えるべく、職員の異動は最小限に、との配慮がなされている。昨年度、夜勤専門職員一人の異動はあったものの、職員の普段の声がけや寄り添いにより、特に混乱等もみられなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修については、法人内特養施設と協力して、交代で受講するとともに、県認知症グループホーム協会の定例会に積極的に参加するほか、内部研修を通して、その情報の共有と職員の資質の向上に努めている。資格取得等の自己啓発についても、勤務体制等配慮の後方支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症グループホーム協会の定例会や県南ブロックの研修会などに積極的に参加交流し、情報交換を行うなど、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学を通して、利用者・家族にホームの雰囲気を知ってもらうとともに、他の利用者や職員とのコミュニケーションの状況や利用者の表情等も合わせて観察・把握したうえで、その利用につなげている。利用開始後も安定するまで、職員の声かけや気配りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に、業務的な介護にならないよう職員間で気をつけ合いながら対応をしており、食事の準備や片付け、洗濯物たたみや掃除、縫い物など、普段の生活場面では、細やかな声かけや見守りを心がけ、残存能力や意欲がより長く維持できるような支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回訪問時の聞き取りのほか、日々の生活における行動記録だけではなく、普段の会話や表情等を通じて把握された思いや意向についても「ケース記録」への記録に努め、その情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の解決すべき課題等について、担当職員が整理し、計画作成担当者が、家族等の意向を把握しながら、職員の話し合いを経て、介護計画として作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、心身の状況の変化に応じて、随時見直しをしているが、家族等との話し合いの時間や機会が思うように取れないときもあるため、今後は家族等の意向把握に努めたいとしている。	○	家族の面会や来訪時を利用して、家族との面談時間等を設定するなどの工夫により、家族等の意向が十分反映された介護計画となるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が買い物をしたいときや、昔の馴染みのところへ行きたいとき、通院や理美容を利用したいときなど、利用者の思いや希望に合わせて、法人内事業所との連携・協力を得ながら、柔軟かつ臨機応変な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっているほか、協力医療機関との連携も図られている。通院については、定期的又は随時に、職員がその支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携の指針について家族に説明するとともに、その運用や対応のあり方等について職員間でミーティング等を通じて共有に努めている。なお、終末期等のあり方については、日頃において家族との情報交換を通じて理解を深めていきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「声かけチェックリスト」を作成して、トイレ誘導など、利用者の羞恥心に配慮した声かけに活用している。ケース記録等個人情報については、書棚等見えないところに保管するなど、その徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の概ねの生活パターンを設定をしているが、利用者のその日の体調や希望に応じた起床や朝食をし、また、レクリエーションや、外出なども利用者に合わせて無理強いすることをせず、柔軟な対応で支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいものなどを話し合いながらメニューを決め、職員と一緒に買い物をし、食事の準備をするなど、主体性を活かした食事の支援に努めている。なお、食事後の後片付けも職員と会話をし楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	行事等を除く毎日、昼食後の希望する時間帯に、それぞれの利用者のペースで入浴できるように努めており、また、気の合う仲間との入浴や、職員との会話を大切にするなど、楽しく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の長年培った生活の中での役割として洗濯物たたみや、食事づくり・後片付け、テーブル拭きなどをしてもらったり、また楽しみや気晴らしのため、買い物やドライブにでかけたり、縫物や貼り絵、歌など、利用者の経験や知恵を発揮する場面づくりをしながら支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物等、利用者のその日の希望や体調に応じた外出支援を行っている。また、今年度は、利用者の昔馴染みの場所へ出かけるなど、思い出を楽しめる工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	来訪者確認のために、玄関にチャイムを設置しているが、日中は玄関に鍵はかけていない。なお、外出行動のある利用者はいないが、利用者へのさりげない声かけや見守りを行い自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の委員を緊急通報システム連絡網の中に組み入れるほか、地域住民の参加協力を得て、避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量について、毎日記録するとともに、食事に注意が必要な利用者についてはチェックするほか、刻み食などについても状態に応じて小まめに対応している。献立や栄養バランス等については、法人栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、天窓から日差しが程よく差し込むなど、暖かい環境の中、テレビや畳、ソファが置かれている。利用者と職員が、常に、料理等を一緒に行なえるよう、リビングと台所は一体的に配置されている。四季折々に壁面を替えるなど、季節感にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段、使い慣れたベッドや整理ダンス、着慣れた衣類、忘れられない家族の写真、思い出の人形等、その人らしく、部屋の思い思いのところに置いたり、飾ったりして、住まいしている。居室の入り口には、それぞれの写真を掲げて「私の部屋」を演出している。		